１．個人データ

職名：准教授　氏名：谷口 博　学位:博士(地球環境科学)　e-mail: taniro@kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

【赤道β平面浅水系の線形シアー流中で発生する不安定モードの物理的解釈】

赤道域大気シアー流中で発生する不安定現象の解釈を行うため，赤道β平面浅水系の線形シアー流中で発生する不安定モードを固有値計算によって求め，中立波の共鳴の観点から物理的解釈を行っている.

【スペクトルモデルを用いたβ平面減衰性 2 次元乱流の数値実験】

地球流体電脳倶楽部で開発されたスペクトルモデルを用いて，β平面減衰性2 次元乱流の数値実験を行った.

【赤道域に於ける季節内振動の予測可能性評価】

気象庁の現業1ヶ月アンサンブル予報システムにおいて改良した初期摂動作成スキーム用いて，熱帯域に於ける季節内振動(MJO)の予測可能性を調査した.

【全球非静力学モデルを用いた2006年12月実験における赤道域季節内振動の再現性評価】

海洋研究開発機構と東京大学気候システム研究センターが共同で開発した全球非静力学モデル(NICAM) と海洋研究開発機構の地球シミュレーターを用いて，世界で初めて全球7km (14km) 格子の解像度で再現した赤道域の季節内振動の再現性の定量的な評価を行っている.

【全球非静力学モデルによるサイクロン/台風発生の初期値アンサンブル実験】

全球非静力学モデルと地球シミュレーターを用いて，2008年4月にミャンマーに甚大な災害をもたらしたサイクロンのアンサンブルシミュレーションを実施し，サイクロンの予測可能性と発生要因を検討した.

【観測と同期した全球非静力学モデルによるリアルタイム予報システムの構築】

海洋研究開発機構が2010年に実施した赤道域の大規模気象観測キャンペーンと同期したリアルタイム予報システムを構築し，2ヶ月にわたる予報計算を実施，結果を観測現場(陸上，海上，航空機) にリアルタイムで提供した.

【全球非静力学モデルによる水惑星実験 –熱帯域季節内振動の解像度依存性–】

熱帯域季節内振動の数値モデル再現性向上の理解を得るため，全球非静力学モデルを用いて水惑星実験を実施し，熱帯域季節内振動の空間解像度依存性，積雲パラメタリゼーション依存性，海面水温分布に対する感度について調査している.

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・大気科学／地球流体力学
・物理教育

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・大気科学全般（天気予報の仕組み，熱帯気象学，惑星気象学，等）
・物理学実験（放射線観察，望遠鏡製作，等）
・地球科学としての防災・減災入門

（３）キーワード

・大気科学，物理教育，地球科学としての防災・減災